

第5学年 道徳科学習指導案

日 時：平成30年5月23日（水）5校時

場 所：小ホール

指導者：T1教諭 嶋津 寿克 T2教諭 大場 悠

T3講師 晴山 節子 T4教諭 日下 美緒

1 主題名 自分に誠実に A－(2) 正直, 誠実

2 主題について

(1) ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、A「主として自分自身に関すること」の「誠実に、明るく心で生活すること」と関連が深い内容項目である。

子どもたちは、誰も見ていなくても嘘をつかず、陰ひなたなく誠実な行動を取ることがよいことは分かっている。しかし、自分の弱さから本当のことを言えなかったり、誠実な行動ができなかったりしてしまう。意に反して流されて行動してしまうことや傍観者として過ごしてしまうことは心地よいものではないことを考えさせることを通して、誰も見てない場面や自分が黙っていれば分からない内容であっても、自分の良心に照らして正しいと思える行動をとろうとする態度を育てていくことが重要である。

(2) 児童について

本学年は、男子7名、女子15名、計22名の学年である。5年生になり、委員会活動やクラブ活動など、学年の枠を越えた「学校」という大きな集団の活動に、意欲的に取り組んでいる。善悪の判断ができ、誰が見てもよくない行いに対しては、その不当性を批判することができる児童が多い。しかし、自分のことになると、自分に都合の悪いことはごまかしたり、友達へ責任転嫁したりする様子が見られる。自分には「ちょっとくらいならいいだろう」という甘い心が働くが、他者がずるい行いをすると厳しく批判する児童も見られる。

本時の授業にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。

(4月13日実施 男6名 女14名 計20名 未実施2名 質問紙法)

A (だいたい身に付いている) B (どちらかといえば身に付いている) C (あまり身に付いていない) D (不足しているので今後身に付けたい)	A	B	C	D
自分でできることは自分でやり、わがままをしないで生活する。	1	15	3	1
よく考えて行動し、あやまちはすなおに認める。	1	13	4	2
正しいと思うことは勇気を持って行う。	4	8	6	2
うそをついたりごまかしたりしないで、明るく元気に生活する。	3	11	5	1

「自分でできることは自分でやり、わがままをしないで生活する」「よく考えて行動し、あやまちはすなおに認める」「うそをついたりごまかしたりしないで、明るく元気に生活する」の項目では、7割以上の児童が肯定的に回答しており、物事の良し悪しをよく考え、明るく素直に生活しようとしていることが分かる。しかし、実生活では友達と遊ぶときにずるい行いをしてトラブル

ルになったり、宿題の提出を忘れたことを気付かれるまで黙っていたりする様子も見られ、悪いと分かっているにもかかわらず、自分の利益を優先した行動をしてしまう姿が見られる。「正しいと思うことは勇気を持って行う」の項目では、8名の児童が否定的な回答をしており、誠実な行動を取ることが大切であることを理解しているものの、実際に行動に移すのは難しいという実態がある。

(3) 教材について

① 教材名 「見えた答案」 出典：「新しい道徳5」 東京書籍

② 価値 A- (2) 正直, 誠実

③ 教材について

本教材は、主人公の花子が算数のテストで不正をしてしまう物語である。家族の看病で十分な準備ができないままテストに臨んだ花子は、問題を解きたい焦りから、友達的答案を見てしまう。翌日テストが返却され、全問正解だったものの、花子は惨めな気持ちになり、もう二度としないと反省する内容である。

自分がしてしまった不正は誰にも気付かれていないものの、その行いを反省し、自分を変えていこうとする花子の姿を通して、誠実に行動することのよさについて考えることのできる教材である。

④ 教材分析 (別紙)

(4) 指導にあたって

事前に「ずるい行いやごまかしはしてもよいと思うか」、「ずるい行いやごまかしをした経験はあるか」ということについてアンケートを行い、児童の実態をつかむ。また、課題意識を持たせるため、教材を事前に読ませ、感想と話し合いたい課題を考えさせる。そして、児童が考えてきた課題の中から、教師がいくつか選択して提示し、その中から児童に本時の課題を選ばせる。

本時では、導入場面でアンケートの結果を提示し、誠実に行動することが大事であることは分かっているが、実際にはできていない実態があることを確認し、人間理解を深める。次に、ハートメーターを使って花子の行動についてどう思うのか示させ、自分の考えを明確にさせる。そして、児童が選んだ課題について対話形式で話し合いを進め、テストで思わず不正をしてしまい、後悔する花子の心情について考えさせていく。対話では、テストに至るまでの花子の家庭の事情やテスト中の焦燥感からテストを見てしまった花子の弱さに共感させながら、返ってきた答案を見て後悔する気持ちに注目することで、価値理解や他者理解を深め、誠実に行動することの大切さについて考えさせる。授業の終末では、対話を振り返らせ、考えたことを「あすなるノート(道徳科ノート)」に書かせることによって、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。

(5) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。提言**1**、**2**を踏まえ、対話の中で児童に考えを積極的に発表させ、友達の見解をよく聞いて考えるよう声掛けをする。また、教師も児童の発言に耳を傾け、ともに考える姿勢を示す。提言**3**を踏まえ、本時のねらいを明確にし、授業のまとめの段階で振り返りの時間を設定する。提言**4**、**5**を踏まえ、事前に家庭学習で教材を読ませ、感想と本時で話し合いたい課題を考えさせる。ま

た、授業のまとめでも自分の考えを書く時間を設定し、振り返らせることによって、自分自身の姿を見つめさせる。

3 校内研究との関わり

(1) 研究主題

「思いやりとたくましさを持つ児童の育成」

～自他との対話の中で考えを深める授業実践を通して～

本授業は、本校の研究主題の中の「たくましさ」を受け、柔軟に、正しい判断をし、行動する気持ちを育むことをねらったものである。

(2) 研究の視点との関わり

【視点1】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業展開の工夫

- ① 事前にずるい行いやごまかしの実体験に関するアンケート調査を実施し、導入で結果を提示することによって、児童が自分自身の生活と教材を関連付けて考えられるようにする。
- ② 教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識を持って主体的に対話を進められるようにする。
- ③ 対話の中で出たキーワードをホワイトボードに書いて教師が整理することにより、児童が考える手立てとする。
- ④ 授業の最後に対話を振り返り、自分の考えを「あすなるノート」に書かせることによって、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい

対話を通して、主人公の行動について考え、誠実に行動することのよさに気づかせる。

(2) 準備物

- ① 教師 : 掲示用挿絵 アンケート資料 コミュニティボール ツールキット
- ② 児童 : 筆記用具 「あすなるノート」

(3) 学習過程

段階	学習活動 (◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	○指導上の留意点 ◇評価 【5つの提言】 (視点① 校内研究の視点)
事前	【事前学習】 ・ずるい行いやごまかしの実体験についてアンケートを行う。 【家庭学習】 ・資料を読み、感想とみんなで考えたい課題を「あすなるノート」に記入する。	○児童の実態をつかむため、「ずるい行いやごまかしはしてもよいと思うか」「つい、ずるい行いやごまかしをした経験はあるか」ということについて、アンケートを行う。(視点①) ○教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識を持つことができるようにする。 (視点②)【提言45】

	<p>【朝の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が考えた課題の中から、本時で話し合う課題を決める。 ・本時の課題に対する自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材について深く考えられるようにするため、児童が考えた課題の中から、教師がいくつか選択し、その中から児童に本時の課題を選ばせる。 ○課題に対する考えを「あすなるノート」に書かせ、自分の考えを持って授業に臨むことができるようにする。
本時導入 5分	1 事前に実施したアンケートの結果を提示する。	○「ずるやごまかしをしてはいけない」と思っているけれども日常生活ではなかなか実行できていない実態をアンケート結果で示し、悪いと分かっているけれども行動してしまう弱さを全体で確認することで、人間理解を深める。 (視点①)
展開 30分	2 教材を基に、児童が選んだ課題について対話する。	○対話に入る前に、「友達の意見を否定しない」などのルールを確認することによって、児童が安心して自分の意見を話すことができるようにする。 【提言12】
	選んだ課題「(例) どうして花子はよし子のテストを見てしまったのか。」	
	<p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答案を出すとき、花子はなぜはっとしたのか。 ・テストは満点だったのに、なぜ花子はみじめな気持ちになったのか。 ・誰にもばれていないのに、なぜ「二度としてはいけない」と思ったのか。 ・もし自分だったら、花子のようにテストの答えが分からないとき、どうするか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に児童が選んだ課題で対話を始め、なぜその課題を考えたのか理由を発表させる。 ○「～さんと似ている」や「自分だったら」などの言葉が書かれたカードを示し、カードの言葉を使って発言させることにより、自分と友達の考えを比較しながら、考えることができるようにする。 ○児童に考えを発表させ、思わず見たときの花子の気持ちや返ってきた答案を見た時の後悔の気持ちなどを押さえることにより、教材の価値理解を深めることができるようにする。 ○対話の中で出たキーワードをホワイトボードに書いて教師が整理することにより、児童が考える手立てとする。 (視点③)
	◎テストは満点だったのに、なぜ花子はみじめな気持ちになったのか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・カンニングをしたことを後悔していたから。 ・先生や友達にばれるのが怖かったから。 ・自分の心がすっきりしないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○満点を取ったのに、みじめな気持ちになっていることについて考えさせることで、花子の後悔の原因がテストの不正であることを押さえ、誠実に行動することの大切さに気付かせる。 ◇主人公の気持ちや立場について話し合っていたか。(話し合いの様子, 発言)

	<p>○つい、ずるい行いやごまかしをしてしまったとき、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪いことをした気がして、後悔した。 ・その時はうれしくなったけど、後からみんなに悪い気がしてきて、いやな気持ちになった。 ・後から誰かにばれないか、ドキドキして不安な気持ちになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入で提示したアンケートを振り返らせ、児童が実際に体験した場面について考えることによって、自分自身の経験と重ね合わせて考えさせ、自己理解を深められるようにする。 ○教師も誠実な行動をとって後悔した経験を話すことによって、児童が自分自身の経験を振り返りながら考えたり、自分の思いを話したりしやすい雰囲気を作る。
<p>まとめ 10分</p>	<p>3 感想をノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○対話を振り返り、自分の考えを書かせることによって、自分自身の姿を見つめ、自己理解を深められるようにする。 (視点④) 【提言3】 ○数名の児童を意図的に指名し、書いた内容を発表させることによって、考えの共有と他者理解を深められるようにする。 ◇誠実に行動することのよさについて考えることができたか。(発言、ノート)

(4) 評価の計画

- 主人公の気持ちや立場について話し合っていたか。(話し合いの様子、発言)
- 誠実に行動することのよさについて考えることができたか。(発言、ノート)

(5) 板書計画

挿絵

挿絵

挿絵

だれも知らないことだけれどももう二度とてはいけない

みじめな気持ちになってきた

夢中で答えを書き始めました

思わず、よし子の答案を見てしまいました

ほかの人はもうできたのかしら・・・

算数ならいつもいい点を取っている

お母さんが熱を出した

アンケート結果①
ずるやごまかしはしてもよいと思いますか。

アンケート結果②
つい、ずるい行いやごまかしをしてしまったことはありますか。

見えた答案

問い(例)なぜ花子はよし子のテストを見てしまったのか。」